

## 草地維持・管理業務

### 1 放牧地等掃除刈り【肉牛G、中小家畜G】

#### (1) 作業時期

6月から8月とする。

肉牛放牧地に係る具体的な時期・区域は、業務担当員（肉牛G）が別途指示する。

めん羊放牧地に係る具体的な時期等は、業務担当員（めん羊）が別途指示する。

#### (2) 作業内容

ディスクモアで均一の高さに刈り取ること（刈取高 10cm）

めん羊放牧地に関しては、刈り取り後速やかにテッターで掃除草を分散させること。

#### (3) 作業場所

肉牛放牧地 161.2ha、めん羊 45.8ha（22.9ha×2回）とする。

場所は、地図1示した場所とする。

#### (4) その他

兼用地の採草利用は、時期等について業務担当員（肉牛G）と打合せを行うこと。

また、業務担当員（肉牛G）の指示があった場合は、兼用地の縁刈り等を行うこと。

### 2 放牧地肥料散布

#### ■肉牛放牧地

#### (1) 作業場所・時期

作業場所は、肉牛放牧地のうち概ね 45.1ha 程度とし、具体的な時期・区域は業務担当員（肉牛G）が別途指示する。

#### (2) 作業内容

化学肥料をブロードキャスターで均一に散布する。

散布量は、化学肥料（13-6-13-3）を 24kg/10a とする。

### 3 堆肥散布 【飼料生産技術G】

本作業について、業務処理責任者は、業務担当員（飼料生産技術G）と事前に、乙の計画する作業時期及び散布場所等を打合せ、業務担当員の確認を受けて実施すること。

#### (1) 散布量

予定散布量は 3,000 トンとし、堆肥保管場所から搬出し散布すること。

#### (2) 堆肥保管場所

集中堆肥舎及び総合堆肥舎とする。

#### (3) 散布場所

採草地及び更新地など

#### (4) その他

本場以外の地域から堆肥搬入し散布する場合は、防疫上の観点から、事前に甲と協議を行い許可を受け実施すること。

## 草地維持・管理業務

### 4 採草地維持管理 【飼料生産技術G】

採草地は、甲乙で打合せを行った上で、計画的に施肥管理・防除等を行い生産性の向上に努めること。特にギシギシ類は継続的な防除が必要なため、対応する除草剤を使用した防除を実施すること。防除面積は最大で概ね15haとし、実施場所は事前に甲乙で打ち合わせる。薬剤は甲が準備する。

また、当該年に活用しない場合でも、掃除刈りを行うなど適正に維持管理に努めること。

定期的に草地の更新を進める。その場合、十分な準備期間をとって甲乙協議する。

### 5 畜産試験場におけるほ場試験について 【飼料生産技術G】

採草地の一部を用いて試験を行う場合があるので、事前に業務担当員(飼料生産技術G)と業務処理責任者とで協議を行う。ただし、試験の実施により乙の事業実施計画に支障を来す場合には、甲乙協議の上、実施する。